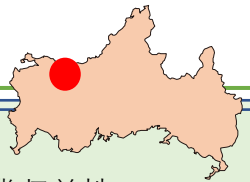


7. 事業名称：森林管理組織「リフォレながと」を核とした長門型林業経営モデル構築事業 (実証地：山口県)

実証団体 林業経営体：(一社)リフォレながと
 支援機関：山口県農林総合技術センター、住友林業(株)

太字は事業実施主体窓口
 アンダーラインは経営体、支援機関の代表



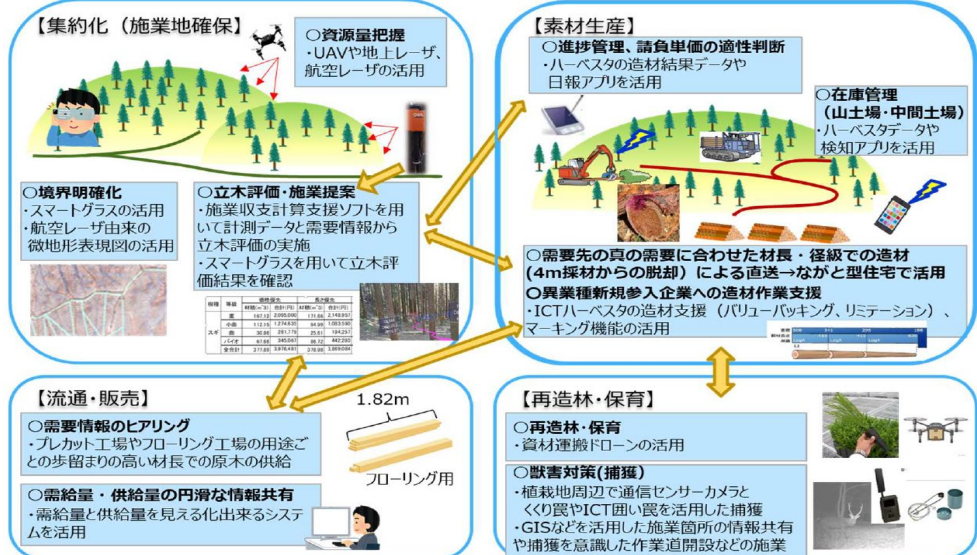
➤ 実証のテーマ

地上レーザやICTハーベスタ等の先進的技術を駆使し、製材工場との詳細な需要情報の共有原木の付加価値を高め、林業収益性の向上につながる森林管理組織「リフォレながと」を核とした長門型林業経営モデルの構築を実証

➤ 実証の内容 (アンダーラインは、使用機械・機器等)

- (集約化 (施業地確保))
 - スマートグラス(※)やドローンレーザ、地上レーザによる精度の高い森林資源把握 (※) IOT化されたメガネ
- (素材生産)
 - ICTハーベスタや木材検知システムを導入し、需要に応じた最適採材、生産管理等による収益性の向上
- (流通・販売)
 - 製材工場と需要情報を共有し、必要な原木を必要なだけ造材できる仕組みを構築
- (再造林・保育)
 - 再造林一貫作業システム及びUAVによる資材運搬(苗木等)を導入
 - ICTを活用した獣害対策

主な実証内容



➤ 新しい技術の先進性、独自性、優位性

- (集約化 (施業地確保))
 - スマートグラスを活用し、現地と現場を動画でつなぐ境界の確認、採材予測モデルの実用化
- (素材生産)
 - ICTハーベスタの導入による造材支援や造材進捗状況の把握
- (流通・販売)
 - 素材生産現場、工務店等と需要情報を共有し、ニーズに合わせた造材の実施
- (再造林・保育)
 - UAVによる資材(苗木等)運搬、ICTを活用した獣害対策 (ICT罾)

➤ 実証の目標

- (集約化 (施業地確保))
 - 皆伐に加え、間伐など私有林との長期施業委託契約面積：**150ha**
- (素材生産)
 - ICTハーベスタ導入によるコストダウン(素材生産効率化)：**500円/m³**
 - ICTハーベスタの導入により、確保する新規参入事業体：**1社**
- (流通・販売)
 - 需要者との情報共有によるバリューアップ、山から直送することによる運送効率化のコストダウンによるプライスアップ：**併せて500円/m³**
 - 安定的な供給体制構築による、「ながと型住宅」建設：**5棟**
- (再造林)
 - 皆伐実施後の再造林率：**100%**
 - ICTを利用した罾によるシカの捕獲：**100頭/年**

➤ 事業効果

- 小規模林業事業体の素材生産量の増加、異業種からの参入を増やす必要のある市町村に、課題解決のモデルとして広く普及
- 本実証により森林所有者の関心をさらに高めることができ、林業の発展のみならず、森林整備を進めることにより、森林が持つ多面的機能の発揮にも寄与